

2. 火山の概況

(平成17年3月17日～平成17年3月23日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていたと推定される。

浅間山では火映がほぼ連日観測された。火山活動度レベル（以下レベルと記載）は3。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では熱的な活動のやや活発な状態が続いた。レベルは2。

霧島山では微動が発生した。御鉢のレベルは2、新燃岳のレベルは1。

口永良部島では地震活動のやや活発な状態が続いた。レベルは2。

諏訪之瀬島では降灰があった。レベルは3。

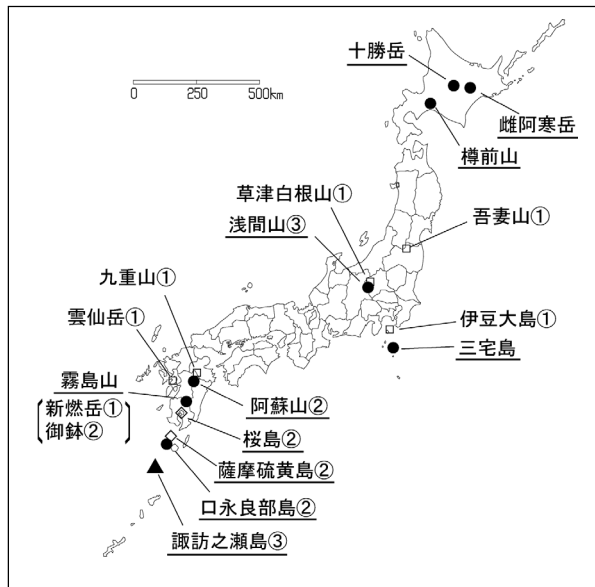


図1 各火山の今期間の火山活動度レベル及び記事を掲載した火山（火山名に下線）

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	浅間山	三宅島	福徳岡ノ場	阿蘇山	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
12	3/17-3/23	●	●	●	●	●		●	●	◇	◇	●	▲
11	3/10-3/16	●	●	●	●	●		●	●	◇	◇	●	▲
10	3/3-3/9	●	●	●	●	●	●	●	●	◇	◇	●	▲
9	2/24-3/2	●	●	●	●	●		●	●	◇	◇	●	▲
8	2/17-2/23	●	●	●	●	●		●	●	◇	◇	●	▲

号	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山（新燃岳）	霧島山（御鉢）	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
12	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
11	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
10	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
9	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
8	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③

表1 最近1か月に記事を掲載した火山（左）及び各火山のレベル

注1 記号の意味

- ▲：噴火した火山 ●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山 ◇：その他記事を掲載した火山
- ：記事を掲載していないレベル対象火山 ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 記事は、▲、●及び◆（注1参照）に該当する火山及びレベル2以上の火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

注3 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● 雌阿寒岳 [熱]

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200mで推移した。

● 樽前山 [熱]

A火口およびB噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 浅間山 [噴煙・火映・地震・微動] レベル3 (山頂火口で小～中噴火の可能性)

今期間、噴火は観測されなかった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約500mまで上がった。また、微弱的な火映がほぼ連日山麓の高感度カメラで観測された。

火山性地震は1日当たり50～65回、火山性微動は0～3回観測された。

● 三宅島 [熱・火山ガス・噴煙・地震・空振]

22日に上空から行った観測¹⁾では、火口周辺及び火口内に大きな変化はなく、赤外熱映像装置²⁾による観測では、火口内の最高温度は87℃であった(前回(3月1日)は150℃以上)。火山ガス観測では、二氧化硫黄の放出量は日量3,600～4,800トンで依然として多い状態であった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約800mまで上がった。

19日09時台及び11時台にやや低周波の地震が増加した。11時51分及び11時53分に発生した低周波地震では、三宅村神着で震度1が観測され、地震に伴い弱い空振も観測された。その後地震は減少した。この間、噴煙活動等その他の火山活動に特に変化はみられなかった。

地震は前述の19日に25回とやや多く観測されたが、その他の日は1日当たり0～5回と少ない状態であった。

1) 海上保安庁の協力による。

2) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 阿蘇山 [微動・地震] レベル2 (やや活発な火山活動)

今期間は悪天等のため現地観測を実施できなかった。中岳第一火口の状況は、監視カメラにより湯だまりの存在が時々確認されたものの、色、量、土砂噴出の発生状況等は不明であった。

噴煙は白色で噴煙の高さの最高は火口縁上約600m(前期間400m)であった。

孤立型微動の発生回数は554回であった(前期間は463回)。火山性微動の発生はなかった(前期間もなし)。火山性地震は一日あたり18～55回発生し、消長はあるもののやや多い状態であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

● 霧島山 [微動] 御鉢：レベル2 (やや活発な火山活動)・新燃岳：レベル1 (静穏な火山活動)

今期間、監視カメラによる観測では、御鉢火口の噴気は観測されなかった。また、19日に継続時間の短い振幅の小さな火山性微動が1回発生したが、噴気活動、地震活動等その他の観測データに特に変化はなかった。

◇ 桜島 レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(前期間もなし)。噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

◇ 薩摩硫黄島 レベル2 (やや活発な火山活動)

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

● 口永良部島 [地震・微動・噴気] レベル2 (やや活発な火山活動)

火山性地震は日回数に増減があるもののやや多い状態で推移し、期間中の回数は52回であった(前期間は29回)。火山性微動は、継続時間の短いものが時々発生し、期間中の回数は4回であった(前期間は9回)。監視カメラ(新岳の北西約4kmに設置)による観測では、19日に火口縁上約10mの高さに上がっている白色、ごく少量の噴気が観測された(前期間はなし)。

▲ 諏訪之瀬島 [降灰・微動] レベル3 (小規模な噴火が発生)

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、21日朝に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が確認された。21日04時頃～08時頃に火山性連続微動が観測された。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第79号	17日16:00	前日及び当日00時～15時の活動状況(噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想)。レベルは3。
	↓(1日1回発表)	↓	
三宅島	火山観測情報第85号	23日16:00	前日15時～当日09時もしくは当日09～15時の活動状況、及び上空の予想。
	火山観測情報第149号	17日09:30	
阿蘇山	↓(1日2回発表)	↓	火山活動は引き続きやや活発(湯だまりの表面温度高い、土砂噴出発生、地震やや多い)。レベルは2。
	火山観測情報第162号	23日16:30	
阿蘇山	火山観測情報第11号	18日11:00	火山活動は引き続きやや活発(湯だまりの表面温度高い、土砂噴出発生、地震やや多い)。レベルは2。
口永良部島	火山観測情報第13号	18日14:00	やや活発な火山活動継続。レベルは2。